

リハビリテーション医学

責任者・コーディネーター	整形外科学講座 土井田 稔 教授		
担当講座・学科(分野)	整形外科学講座、眼科学講座、耳鼻咽喉科学講座、脳神経外科学講座、口腔医学講座関連医学分野、神経内科・老年科分野、睡眠医療学科、泌尿器科学講座、心血管・腎・内分泌内科分野		
担当教員	古町 克郎 特任准教授、福田 敦 非常勤講師、平海 晴一 准教授、木戸口 順 非常勤講師、千葉 俊美 教授、大井 清文 非常勤講師、櫻井 滋 教授、高田 亮 講師、田代 敦 特任准教授		
対象学年	4	区分・時間数	講義 12.0 時間
期 間	前期		

・学習方針（講義概要等）

リハビリテーションの定義は良好な健康や仕事ができるような状態を取り戻すことである。機能障害および環境面の制約に対応して、身体、精神、社会、職業、趣味、教育などの諸側面の潜在能力を発展させることにより、すべての障害者の自立と社会参加を目指すことが基本理念である。

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

身体的、心理的、社会的、霊魂的（実存的）に満足いく状態（well-being）を阻害する障害の発生機序と病態・治療を理解することで、障害者と社会（環境・福祉）の関連性を認識することができる全人的な視野を持つ医療人に到達する。さらに、医学としての科学的な身体的・精神的評価法を修得することで、専門性にとらわれない臨床医となる。

・到達目標（SBO）

1. WHO 国際障害分類、疾病と健康、リハビリテーションについて説明できる。
2. ノーマライゼーションと、ADL、APDL、QOL について説明できる。
3. 高次脳機能障害および神経疾患の病態とリハビリテーションについて説明できる。
4. 運動器（骨・関節、筋・神経）障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
5. 音声・言語障害および聴覚・平衡障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
6. 視覚障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
7. 精神疾患・障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
8. 呼吸器疾患の病態とリハビリテーションについて説明できる。
9. 心臓・循環器疾患の病態とリハビリテーションの適応および効果について説明できる。
10. 消化器（直腸・小腸、嚥下・咀嚼）障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
11. 腎・膀胱・排尿障害と性機能障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/16	月	3	整形外科科学講座	古町 克郎 特任准教授	運動器機能障害、神経障害のリハビリテーション
5/16	月	4	泌尿器科学講座	高田 亮 講師	腎・膀胱・排尿障害と性機能障害のリハビリテーション
5/23	月	3	睡眠医療学科	櫻井 滋 教授	呼吸器疾患のリハビリテーション
5/23	月	4	耳鼻咽喉科学講座	平海 晴一 准教授	難聴・平衡障害および音声・言語障害のリハビリテーション
6/13	月	3	心・腎・内分泌内科学分野	田代 敦 特任准教授	心臓・循環器疾患のリハビリテーション
6/16	木	3	口腔医学講座 関連医学分野	千葉 俊美 教授	消化器機能障害のリハビリテーション
6/16	木	4	眼科学講座	福田 敦 非常勤講師	視覚障害と低視力者のリハビリテーション
6/17	金	2	神経内科・ 老年科学分野	大井 清文 非常勤講師	高次脳機能障害と神経疾患のリハビリテーション

・ 教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
	リハビリテーション医学テキスト 改訂 3 版	三上真弘、出江紳一 編	南江堂	2010
	現代リハビリテーション医学 改訂 3 版	千野直一 編	金原出版	2009
	標準整形外科学 12 版	松野丈夫、中村利孝 総編集	医学書院	2014
	脳卒中の早期リハビリテーション 2 版	二木立、上田敏 著	医学書院	1992
	ロービジョンへの対応(「月刊眼科診療プラクティス」61)	丸尾敏夫 編	文光堂	2000

	モーターコントロール :研究室から臨床実践へ 第4版	Anne Shumway-Cook, Marjorie Woollacott 著、田中繁、高橋明 監訳	医歯薬出版	2013
	狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション 改訂4版	齋藤宗靖、後藤葉一 編	南江堂	2009
	最新リハビリテーション医学 2版	石神重信ほか編	医歯薬出版	2005
	目でみるリハビリテーション医学 2版	上田敏 著	東京大学出版会	1994
	運動負荷試験 Q&A 119 改訂第2版	上嶋健治 著	南江堂	2013
	誰にでもできる精神科リハビリテーション：東京武蔵野病院精神科リハビリテーションマニュアル	野田文隆、蜂矢英彦 責任編集	星和書店	1995
教	呼吸ケア実践ハンドブック：管理とリハビリテーションのすべて	永井厚志 編	南江堂	2005
参	視覚代行リハビリテーション：視覚障害者と高齢者のために	高柳泰世、愛知視覚障害者援護促進協議会 編	名古屋大学出版会	2005
推	基礎運動学 6版	中村隆一、齋藤宏、長崎浩 著	医歯薬出版	2003

・成績評価方法

試験成績により評価する。

・特記事項・その他

1. 各種リハビリテーションの概念
2. 中枢神経障害の運動リハビリテーション
3. 高次脳機能障害・神経疾患のリハビリテーション
4. 難聴・平衡障害と音声・言語障害のリハビリテーション
5. 視覚障害および低視力者のリハビリテーション
6. 精神疾患のリハビリテーション
7. 運動器疾患、神経障害のリハビリテーション
8. 呼吸器疾患のリハビリテーション
9. 心臓・循環器疾患のリハビリテーション
10. 消化器疾患のリハビリテーション
11. 腎・膀胱・排尿障害と性機能障害のリハビリテーション

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			